

経済・金融 フラッシュ

中国経済:6/1 発表の製造業PMI ～新規受注の増加で3ヵ月連続の改善

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

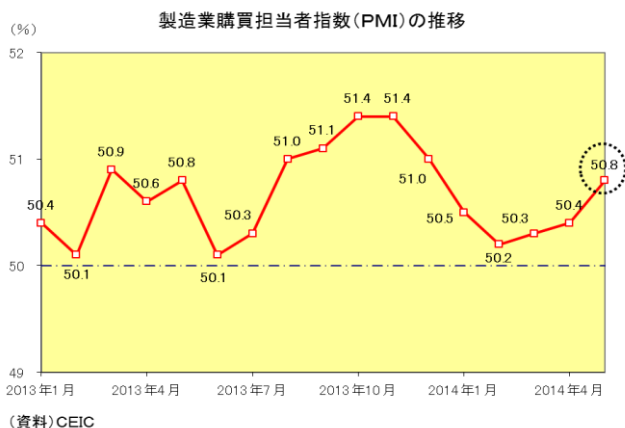
- 5月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）は50.8%と前月と比べて0.4%ポイント上昇、2月を底に3ヵ月連続の改善となり景気が回復しつつあることを示す結果となった。
- 今回改善の主因は新規受注の増加で、昨年夏場に経済成長率が7%後半に上昇した水準に回復、新規受注増は生産増にも結びつき易いだけに、景気下ぶれ懸念を和らげる好材料となった。
- 但し、生産経営活動予想指数（今後3ヵ月以内の生産経営活動に対する楽観度を示す）は悪化しており、次回発表の6月は悪化することが多いという統計のクセにも当面は留意が必要だろう。

【 総合指数は3ヵ月連続の改善 】

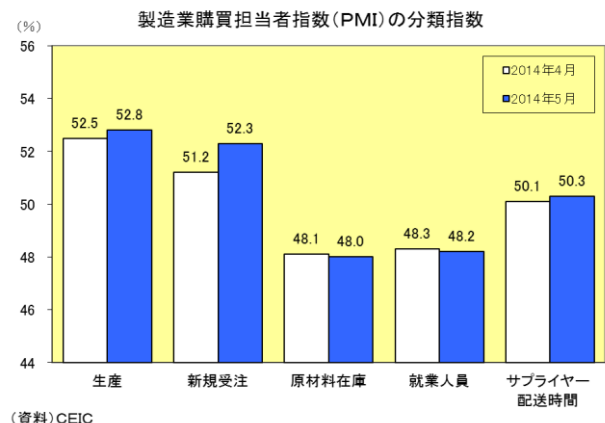
6月1日（日）、中国の国家統計局サービス業調査センターと物流購買連合会は2014年5月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）を発表した。総合指数は50.8%と拡張・収縮の分岐点となる50%を20ヵ月連続で上回るとともに、前月と比べて0.4%ポイント上昇、2月の50.2%をボトムに3ヵ月連続で改善、景気が回復しつつあることを示す結果となった（図表-1）。

総合指数を構成する5つの分類指数を見ると、生産指数は前月より0.3%ポイントの改善、新規受注指数は1.1%ポイントの大幅改善となる一方、原材料在庫指数、就業人員指数、サプライヤー配送時間指数（逆指数）は小幅ながらも悪化している（図表-2）。寄与度を計算して見ると、加重割合が3割と大きい新規受注指数の1.1%ポイント改善だけで、総合指数を0.3%ポイント押し上げている。

（図表-1）



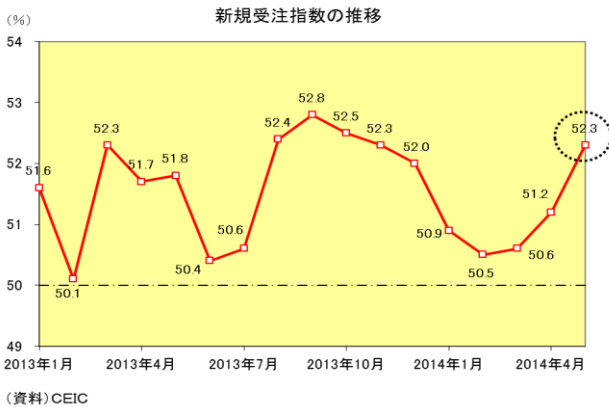
（図表-2）



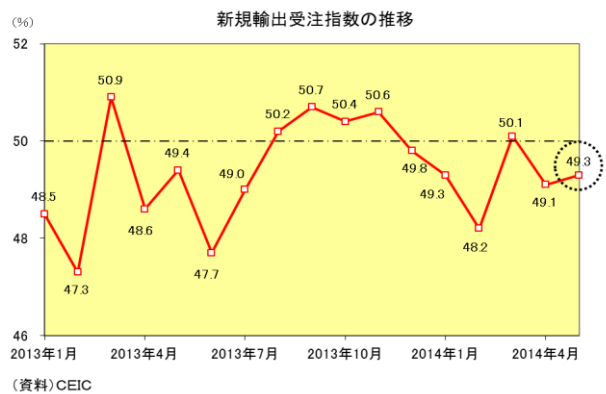
【 新規受注は昨年夏の水準に回復 】

新規受注指数のここ数ヵ月の動きを見ると（図表-3）、2月（50.5%）をボトムに力強く改善してきており、今回の52.3%は昨年夏とほぼ同水準である。昨年夏は経済成長率が7%後半に上昇した時期であり、新規受注増は生産増に結びつき易いという面もあることから、景気下ぶれ懸念を和らげる好材料となった。また、輸出の先行指標として注目される新規輸出受注指数は49.3%と、50%を2ヵ月連続で下回ったものの、前月と比べると0.2%ポイント改善している（図表-4）。

（図表-3）



（図表-4）

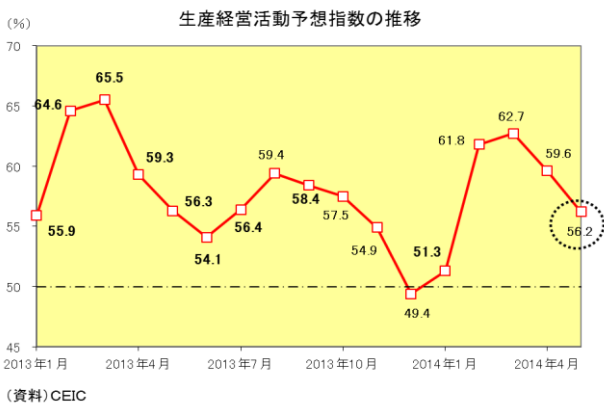


【 当面の留意点 】

一方、今後3ヵ月以内の生産経営活動に対する楽観度を示す生産経営活動予想指数は56.2%と前月より3.4%ポイント悪化、これで2ヵ月連続の大幅悪化となった。依然として拡張・収縮の分岐点となる50%を大きく上回る水準とはいえ、先行きに対する楽観度には陰りが見られる（図表-5）。

また、過去の総合指数の動きを見ると、季節調整後とはいえ調整のクセなのか6月は悪化することが多い（図表-6）。調査ユニバースが820社から3000社へ拡大された昨年も悪化しており、次回7月1日に発表される6月の製造業PMIは統計のクセから見ても悪化する可能性がある。

（図表-5）



（図表-6）

【製造業PMIの前月比(当月値-前月値)】

月	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
1	▲ 0.8	▲ 1.0	0.2	▲ 0.2	▲ 0.5
2	▲ 3.8	▲ 0.7	0.5	▲ 0.3	▲ 0.3
3	3.1	1.2	2.1	0.8	0.1
4	0.6	▲ 0.5	0.2	▲ 0.3	0.1
5	▲ 1.8	▲ 0.9	▲ 2.9	0.2	0.4
6	▲ 1.8	▲ 1.1	▲ 0.2	▲ 0.7	
7	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 0.1	0.2	
8	0.5	0.2	▲ 0.9	0.7	
9	2.1	0.3	0.6	0.1	
10	0.9	▲ 0.8	0.4	0.3	
11	0.5	▲ 1.4	0.4	0.0	
12	▲ 1.3	1.3	0.0	▲ 0.4	

(資料)CEICのデータを元に作成

(注)2013年1月に調査ユニバースが820社から3000社へ拡大

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。